

山と博物館

第48巻 第9号 2003年9月25日

市立大町山岳博物館



コマクサの実生の成長(左上:2003.5.16 右上:6.16 左下:7.16 右下:8.16 中央:9.16)

文・写真 千葉悟志

コマクサの生活史

山岳博物館では山岳の博物館らしく、今年からコマクサの生活史について観察をはじめています。早速ご紹介いたします。

花は、(花冠外輪が)開きはじめると同時に葯が裂開します。そして、このとき柱頭も粘着することから雌雄同熟と考えられます。高山では、花にマルハナバチの仲間が訪れ、その際に花粉が媒介されると本にありましたが、博物館にはまったくと言ってよいほどマルハナバチが訪れることはありません。それにも関わらず、白花のコマクサでも、淡紅花のコマクサでも種子は作られているので、実際には自家受粉しているほうが多いでしょう。

一花あたりに作られる種子はおおよそ一〇個で、ヘソの部分にはエライオソーム(アリを誘引する物質)がくっついていきます。実際に博物館ではアリが種子を巣に運び込むところを観察できます。種子は年内に発芽することとはなく、発芽には低温にさらされる必要があります。

翌春、博物館では四月下旬～五月中旬に発芽し、子葉は異形子葉で、双葉ではありません。葉は展開するに従い、切れ込みが深くなり、八月中旬には大きい株で第一〇葉まで数えることができました。そして、九月中旬には葉に枯れるものが目立ちはじめ、地下茎上には越冬芽がひとつつくられていました。

しかし、唐松岳で観察したところ今年、発芽した実生は八月下旬までに子葉のままか、第一葉しか展開せず、高山では成長に長い時間を要することが伺えます。

さて、今年の観察はここまで。つづきはまたの機会にお話することにしたしましょう。

(大町山岳博物館学芸員)

この詳細は、博物館二階の「コマクサのお話」(監修 清水建美(信州大学名誉教授・金沢大学名誉教授))でご覧いただけます。

歴史史料からみた佐々成政の

厳冬期北アルプス越え

— 松川村榛葉文書を中心にして(前編) —

荒井 今朝一

佐々成政の北アルプス越えについては、戦国武将の果敢な冒険譚として『太閤記』をはじめ後代のいくつかの文献に記載され、喧伝されてきたが、その信憑性については疑問な点も多く、これまで時期やコースを含めて、主として民間伝承や当時の登山装備、技術などの面から論じられてきた。また信濃西部地方についても、単に通過ルートを経由候補地としてのみ考察されがちで、当時のこの地方の歴史状況との関係を論じたものは皆無に等しい。ここでは、地元に残された唯一の現存史料である「大久保忠隣・本多正信連署状」(松川村榛葉文書)を基本に、この事件に関する問題点についての考察を進めてみたいと思う。

一 大久保忠隣・本多正信連署状について
よく知られているように、松川村榛葉家には、「越中往復通用之衆」に便宜を図った新屋但馬守に宛てて、家康の側近であった大久保忠隣と本多正信が送った年号不明の次の文書(連署状)が残されている。

史料1 十月十七日付

大久保忠隣・本多正信連署状

なお、別して御精を入れられ候の事、先年のちなみかと思召され候、以上、

急度申入れ候、仍つて其元において越中往復通用の衆、別して馳走なされ候の由、その間こえに候、尋ねあわせ申上げ候所、一段と御悦喜共に候、兩人よりよくよく申し越すべく候由、仰せ出され候、尚もつて向後の儀通用これある衆は、馳走尤もに候、恐々謹言

十月十七日 大久保新十郎忠隣(花押)

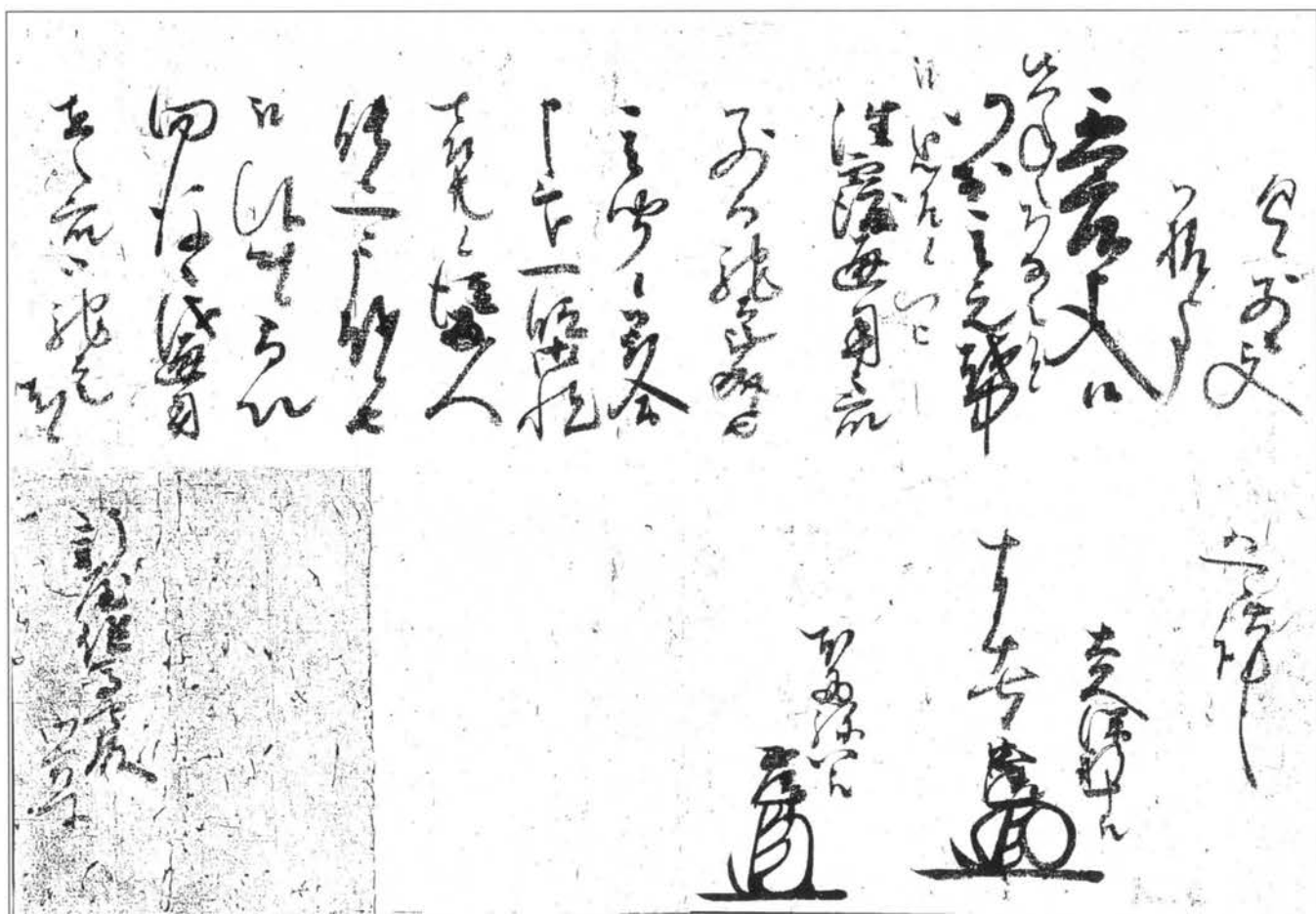
本多弥八郎正信(花押)

新屋但馬守殿 御宿所

〔文意〕

しっかりと申し入れる。ついては、貴殿(新屋但馬守)において、越中(富山)と浜松を往復した者たち(佐々成政一行か)を特別に世話されたとの話を伝え聞いた。調査をし、徳川家康公に申し上げたところ、大変にお喜びになられた。そこで、われら二人(大久保忠隣と本多正信)から、よくよくその事を伝えるように申し渡された。今後も通行する者があつた際は、何分の配慮を願いたい。

また、家康公は、今回の件で貴殿が特別に配慮されたのは、以前からの関係によるものかと思ひである。



史料1 十月十七日付大久保忠隣・本多正信連署状

表1 佐々成政関係主要史料一覧

史料番号	史料名	編者・筆者等	成立年代等	史料の記載内容等
1	大久保忠親・本多正信連署状		天正13年(1585)か	徳川家康の命を受けて重臣の大久保忠隣・本多正信が、「越中往復通用の衆」(佐々成政一行か)の信州通過に便宜を図った新屋但馬守に送った礼状。差出の年号はなく、10月17日の日付がある。
2	『家忠日記』	松平家忠		徳川家康の同族であり、側近でもあった松平家忠(島原藩祖)の日記。天正5年(1577)から文禄3年(1594)までの間が現存しており、この中に、天正12年12月25日に佐々成政が浜松へ到着したことを簡潔に記載してある。
3	『当代記』	松平忠明		家康の外孫で、姫路城主でもあった松平忠明が、手元の記録を基にして後に整理したとされる。天正12年12月に佐々成政が浜松に到着し、織田信雄等と鷹狩りをした後に家康と対面したことや、往復(上下)とも信州を通過したことが記載されている。
4	『甫庵太閤期』	小瀬甫庵	寛永2年(1625)	豊臣秀次や、晩年は加賀藩前田利常に仕えた小瀬甫庵が、寛永2年に編纂したもので、一部には元和2年(1616)の記載もみられる。この中で佐々成政の北アルプス越えを「さらさら越え」と記し、富山出立を11月23日、浜松到着を12月24日としている。
5	『武功夜話』		寛永年間か	伊勢湾台風で崩れた土蔵から発見されたとされ、なんらかの根拠史料を基に吉田家の子孫が先祖の功績などについてまとめたものとみられる。信長の登場から小田原陣までのできごとについて項目を立てて記載しており、史料の発見が新しいために十分な批判や検討はされていない。成政の従者について「熊皮の胴着、同半袴、四尺に余る野太刀を負い」と記している。
6	『武家事紀』	山鹿素行	延宝元年(1673)	山鹿素行が赤穂に配流中に著した武士の百科全書ともいうべき歴史書。信頼できる豊富な古文書を採用しており、この中に佐々成政が、輿に乗って北アルプスを越えたことが記載されている。
7	『武徳編年修成』	木村高敦	寛保元年(1741)	幕臣木村高敦が著した徳川家康の一代記。多くの書物を実証的に検証して編纂された形跡は顕著であるが、出典等は明記されておらず、誤謬もみられる。この書でも佐々成政の浜松到着を12月24日としており、原典として『家忠日記』に依拠していることが推測される。

実は、佐々成政の浜松訪問について記した文獻で、比較的信頼のおける史料は『当代記』と『家忠日記』の二つしかなく、それも天正一二年一二月二五日に成政が浜松に到着して家康と面会したこと、往復(文中では「上下」とも信州を経由したこと、の二点について簡潔に記載しているだけで、通過コースや日時、装備や従者の規模など詳細な実態は、まったく不明といっても過言ではない。その中にある、この文書は、現存する唯一の同時代史料として、しかも通過コースに想定されるこの地方に残った文獻であり、非常に大きな意味をもっている。以下、この史料について考察を進める。

まず、この史料に見える「越中往復通用之衆」についてであるが、これを佐々成政一行ではなく、家康と成政の間を往来した使者や間者などとする見解もある。しかしこの当時、家康の側近中でも最も重きをなしていた大久保と本多の両人が、わざわざ連名で地方武士である新屋但馬守にこうした「礼状」を送っていることからすれば、「越中往復通用之衆」は極めて重要な人物と考えられ、当時の政治状況からすれば佐々成政一行しかありえない。

次に、この連署状の年号についてであるが、「越中往復通用之衆」を成政一行とすれば、彼が家康と面会した天正一三年以降のものとなり、一方で、以下に述べるように宛て人である新屋但馬守が仕えていた小笠原貞慶と徳川家康の間が、それまでの緊密な状況から一転して天正一三年の一月には不和になっていることからすれば、結局のところ天正一三年以外には、考えられない。(つづく)

(長野県史学会会員)

博物館だより

「ニホンカモシカの繁殖を」

目的とした貸し出し

大町山岳博物館で繁殖し、現在飼育展示中のニホンカモシカ一頭(さくら・メス・二〇〇二年五月十四日産まれ)を富山市ファミリーパークへ繁殖を目的とした貸し出しを行うことになりました。移動日は、九月二十九日を予定しています。

この貸し出しはニホンカモシカの種の保存と繁殖のための調査研究に役立てるためのブリーディング・ローン(動物の繁殖を目的とした貸し借り契約・動物の所有権は移さず、貸し出すこと)で行うものです。

期 日 九月二十九日(月)

※悪天候の場合は翌日に順延

時 間 午後十二時

※山岳博物館を出発予定

貸し出し先

財団法人富山市ファミリーパーク公社(富山市古沢二五四番地)

輸送方法

ファミリーパーク職員が車で陸送。

繁殖相手

二〇〇〇年七月二十四日に産まれたオスの個体を予定。

「ニホンカモシカの赤ちゃんの名前募集」

今年五月十四日に山岳博物館で生まれ、人工哺育で育てていたニホンカモシカの赤ちゃんですが、生後一三〇日齢を過ぎ、九月十七日に無事に離乳を迎えました。健康状態、食欲ともに安定していますので、みなさんから

名前を募集します。ぜひ、ご応募ください。詳しい募集要項は次のとおりです。

募集方法

①はがきに住所・氏名・電話番号を明記し、カモシカの名前をひとつ書いて、山岳博物館まで郵送。

(電話・FAXでの応募は受け付けませんのでご注意ください。)

②山岳博物館内の掲示板前に設置した専用の応募用紙に必要事項を記入し、応募箱へ投入。

募集期間

一〇月十九日(日)～十一月二十四日(月)

選考方法

お寄せいただいた名前の中から山岳博物館で選考し、ひとつを決定します。

なお、決定した名前は本誌および当館ホームページのほか、大町市広報誌や地元新聞などで発表します。

赤ちゃんのデータ

・生年月日 二〇〇三年五月十四日
・性別 オス
・父 親 クロ
・母 親 峯子
・特徴 毛色はグレー系で、首のまわりは白っぽい。いたずら好きのやんちゃ坊主です。

お問合せ先

市立大町山岳博物館
長野県大町市大字大町八〇五六―一
TEL 〇二六―二二一―二二二
FAX 〇二六―二二一―二二三
E-mail sanpaku@city.omachinagano.jp
URL <http://www.city.omachinagano.jp/sanpaku/>



今年産まれたカモシカの赤ちゃん(オス)。すてきな名前をつけてください。

山と博物館 第48巻第9号

発行 二〇〇三年九月二十五日発行
〒388-0002 長野県大町市大字大町八〇五六―一
市立大町山岳博物館

TEL 〇二六―二二一―二二二
FAX 〇二六―二二一―二二三

E-mail sanpaku@city.omachinagano.jp
URL <http://www.city.omachinagano.jp/sanpaku/>

印刷 株式会社印刷

定価 年額 一、五〇〇円送料共(切手不可)
郵便振替口座番号 〇〇五四〇七―一三三三